

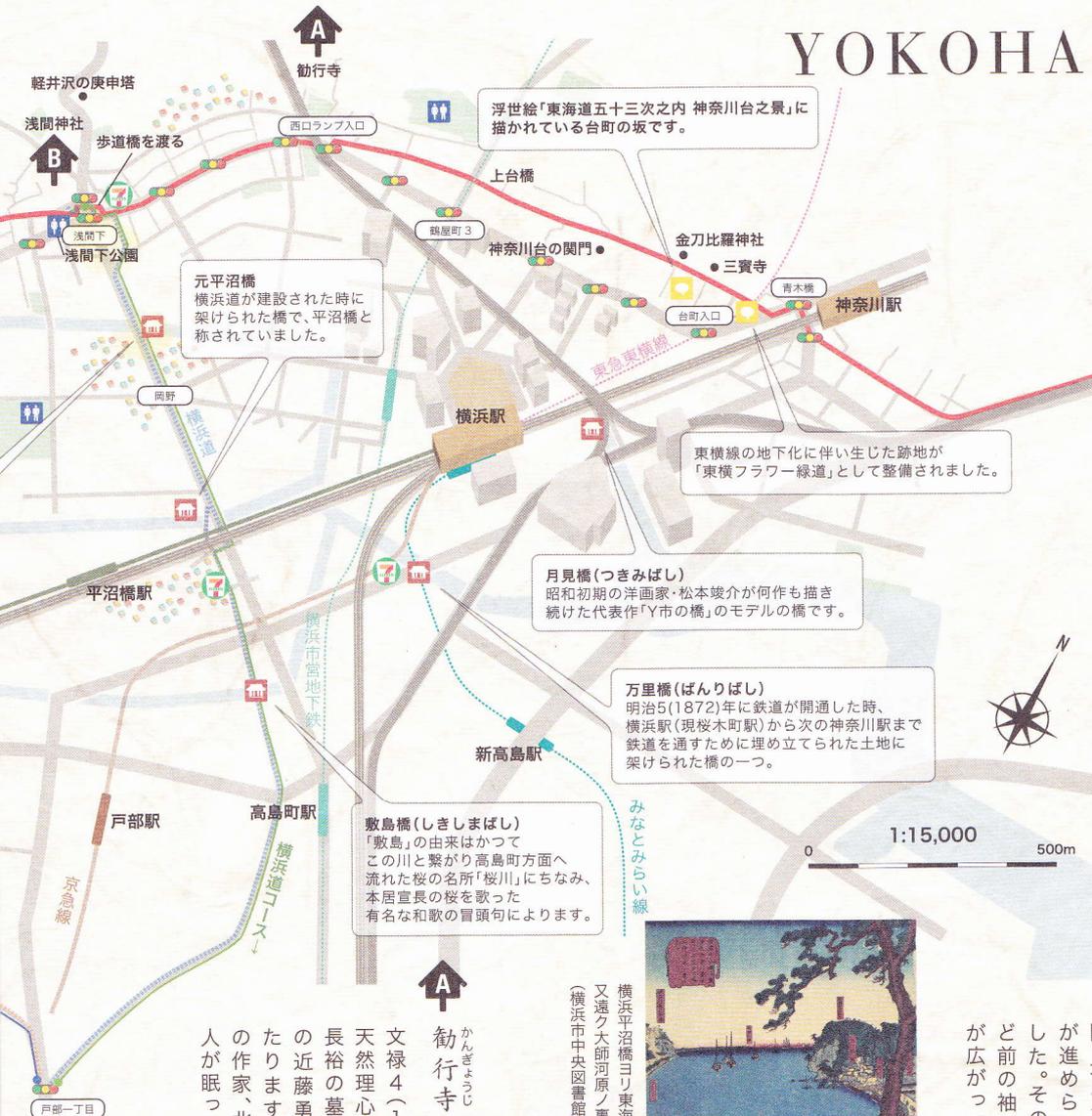
歴史や文化資源が  
数多く残る  
風光明媚の地

横浜駅周辺には旧東海道、横浜道、保土ヶ谷道の三街道があり、その周辺には歴史や文化資源が数多く残っています。開港場を指して全国から集まる人々や物資は、3つの古道を頻りに行き交い、文化が全国に伝えられていきました。この周辺の旧東海道は、神奈川宿から海に沿って保土ヶ谷宿へ通じていました。辺りは袖ヶ浦と呼ばれた内湾で、静かな入り江に白帆が浮かぶなど、大変景色の良い所として有名でした。江戸時代、街道沿いの宿と休憩場所としての立場(たてば)がありました。神奈川宿と保土ヶ谷宿の間の芝生村(しばうむら)は、この立場として発展した村で、農場のほかに飯屋や酒、わらじの販売など商業も営まれていました。

# YOKOHAMA-MICHI

# HODOGAYA-MICHI

# 横浜道 保土ヶ谷道



浮世絵「東海道五十三次之内 神奈川台之景」に描かれている台町の坂です。

元平沼橋  
横浜道が建設された時に架けられた橋で、平沼橋と称されていました。

東横線の地下化に伴い生じた跡地が「東横フラワー緑道」として整備されました。

月見橋(つきみばし)  
昭和初期の洋画家・松本竣介が何作も描き続けた代表作「Y市の橋」のモデルの橋です。

万里橋(ばんりばし)  
明治5(1872)年に鉄道が開通した時、横浜駅(現桜木町駅)から次の神奈川駅まで鉄道を通すために埋め立てられた土地に架けられた橋の一つ。

敷島橋(しきしまばし)  
「敷島」の由来はかつてこの川と繋がり高島町方面へ流れた桜の名所「桜川」にちなみ、本居宣長の桜を歌った有名な和歌の冒頭句によります。

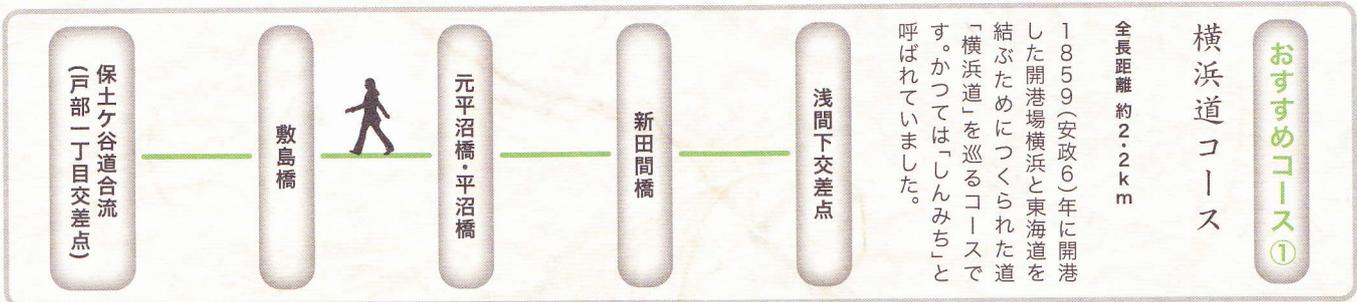


みなとみらい線  
横浜平沼橋ヨリ東海道神奈川台井カレイ沢茶店  
又遠く大師河原ノ裏ヲ見ル  
(横浜市中央図書館所蔵)



横浜駅周辺は海だった  
260年ほど前まで、横浜駅周辺は、芝生村(しばうむら)と戸部村が、旧東海道の景勝地である袖ヶ浦という三角形の内海を挟んで成り立っていました。宝永4(1707)年の富士山大噴火の影響などで湿地帯になっていくと、18世紀以降、埋め立てによる新田開発が進められ、陸続きになりました。その結果、150年ほど前の袖ヶ浦には、畑と塩田が広がっていました。

勸行寺  
文禄4(1595)年に開山。天然理心流開祖、近藤内蔵助長裕の墓があり、新撰組隊長の近藤勇はその4代目にあたります。また、横浜生まれの作家、北林透馬と余志子夫人が眠っています。



おすすめコース①

横浜道コース

全長距離約2.2km

1859(安政6)年に開港した開港場横浜と東海道を結ぶためにつくられた道「横浜道」を巡るコースです。かつては「しんみち」と呼ばれていました。

浅間下交差点

新田間橋

元平沼橋・平沼橋

敷島橋

保土ヶ谷道合流  
(戸部一丁目交差点)



**追分** おいわけ  
保土ヶ谷区境の三差路は、東海道でも芝生(しばう)の追分(おいわけ)といわれて有名でした。八王子道の起点で、甲州街道の八王子宿まで延び、東海道と甲州街道を結ぶ要路としてにぎわいをみせていました。

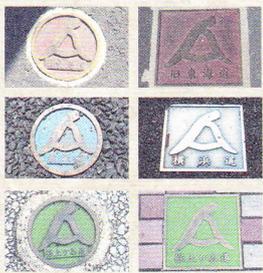


**浅間神社** せんげんじんじゃ  
承暦4(1080)年、富士浅間神社の分霊を祀ったと伝えられ、祭神は、木花咲耶姫命(ことはなさくやひめのみこと)で旧芝生村(しばうむら)鎮守。社殿のある丘、袖摺山(そですりやま)の下は、かつて波打ち際だったといえます。

**C**  
COLUMN

三街道

このあたりは3つの古道、旧東海道、横浜道、保土ヶ谷道が三角形をかたどるように通り、その周辺には歴史や文化資源が数多く残っています。開港場を目指して全国から集まる人々や物資は、旧東海道を含めたこれら3つの古道を頻繁に行き交い、わが国に入ってきた様々な文化もこれらの道を通して全国に伝えられていきました。



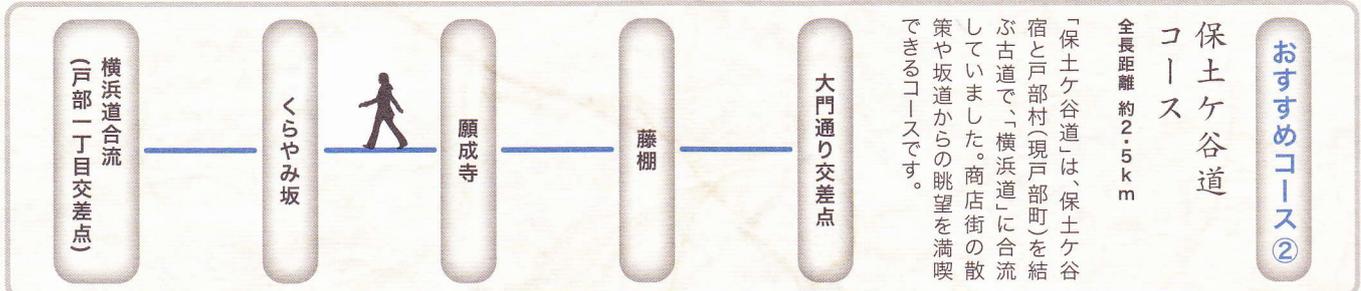
- 利用可能なトイレ
- 歴史的建造物/場所
- インフォメーション
- 旧東海道
- おすすめコース①
- おすすめコース②



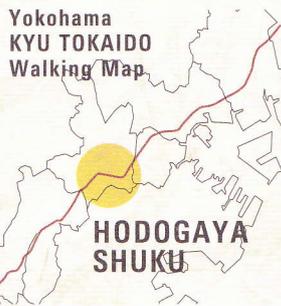
**橘樹神社** たちばなしんじや  
創建は鎌倉時代初期。江戸時代は牛頭天王社(ごずてんのうしや)といわれ、大正時代に今の橘樹神社となりました。当地名の天王町は、旧社名に由来。本殿の庚申塔(こうしんとう)は、横浜市内最古といわれています。



**洪福寺** こうふくじ  
寺伝では、開山呑海(どんかい)といわれ、寛永13(1636)年、袖摺山(そですりやま)薬師堂を当地に移したとされています。本尊薬師如来は、鎌倉権五郎景政の守り本尊と伝えられ、目洗薬師といわれています。



「保土ヶ谷道」は、保土ヶ谷宿と戸部村(現戸部町)を結ぶ古道で、「横浜道」に合流していました。商店街の散策や坂道からの眺望を満喫できるコースです。



日本橋から八里九丁、東海道五十三次では4番目の宿場

保土ヶ谷宿は、慶長6(1601)年、旧東海道に宿駅の制度が定められた際、幕府公認の宿場として誕生しました。江戸から八里九丁(約33km)で品川・川崎・神奈川に続く4番目の宿場です。宿場の役割は、荷物の運搬に要する人馬などの継ぎ立てや旅人の休憩施設の提供、飛脚の業務などがありました。街道は、幕府によりすべて管轄が定められ、保土ヶ谷宿は、芝生村追分(現在の西区との境)から、境木地蔵(現在の戸塚区との境)までの約5kmで、追分から北は神奈川宿、境木地蔵より南は戸塚宿の管轄でした。宿場として街並みを整えていた約2kmの間は、宿内と呼ばれ、本陣を中心に旅館や茶屋、商店が立ち並び、宿場町としてぎわっていました。

# HODOGAYA SHUKU

# 保土ヶ谷宿



国道1号からの分かれ道  
保土ヶ谷2丁目信号付近の国道1号との分かれ道へ進みます(入口に案内サインあり)。

天王町駅～保土ヶ谷駅の道  
江戸の風情が感じられる車止めやタイルが見られます。

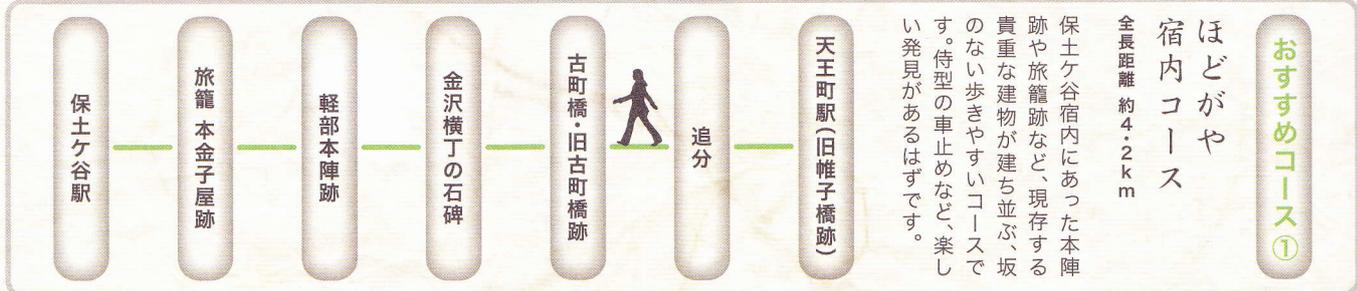
まちかど博物館  
歴史・生活文化・なりわいのわざを物語るものを商店等の店頭に表示しています。



かなざわこちょう  
金沢横丁の石碑  
金沢や鎌倉へ向かう途中の道との分岐点で、角に道案内の石碑が4基並んでいます。その中にある「程ヶ谷の枝道曲がれ梅の花」と杉田梅林への道を示す俳句を詠んだ碑は、地域有形民俗文化財になっています。



きゅうかたひらばし  
旧帷子橋跡  
昭和40年頃の、帷子川の河川改修以前は、今の天王町駅前公園に旧帷子橋が架かっていました。この地は、P2左上の浮世絵のモデル地とも言われています。





江戸時代、旅籠として栄え、格子戸や通用門が当時の雰囲気を与えています。旅籠とは、旅人を宿泊させ、食事を出すことを業とする家のことです。現在の建物は明治初期に建て替えられました。

※外観見学のみの

**D**

旅籠 本金子屋跡  
はたご ほんかねごや



**C**

軽部本陣跡  
かるべほんじん

慶長6(1601)年、徳川家康より「伝馬朱印状でんましゅいんじょう」が「ほどがや」あてに出されたことで、保土ヶ谷宿が成立。東海道を往来する幕府の役人や大名は宿場に設置された本陣に宿泊しました。

※外観見学のみの

**C**

COLUMN

境木おじぞうさん  
もなか(菓匠 栗山)

境木地蔵から徒歩1分の場所にある和菓子店「菓匠 栗山」には、境木地蔵のお地蔵様にちなんで「境木おじぞうさんもなか」をはじめ、神奈川県指定銘菓の「品濃一里塚」など東海道保土ヶ谷宿を和菓子で表現した商品がたくさん揃っています。境木はその昔、権太坂を登りきった旅人や地蔵尊にお参りに来た人たちのための茶屋が多く、大変にぎわったといわれています。



- 利用可能なトイレ
- 飲食/休憩ポイント
- 歴史的建造物/場所
- インフォメーション

- 旧東海道
- おすすめコース①
- おすすめコース②



**F**

境木地蔵尊  
さかいぎじぞうそん

かつて地蔵堂境内にケヤキの大木があり、ここが武蔵国と相模国の国境であることから「境木」という地名になったといわれています。創建は寛治2年(1659)年。江戸からの道中の安全を祈る旅人が多く参拝に訪れました。



**E**

松並木プロムナード

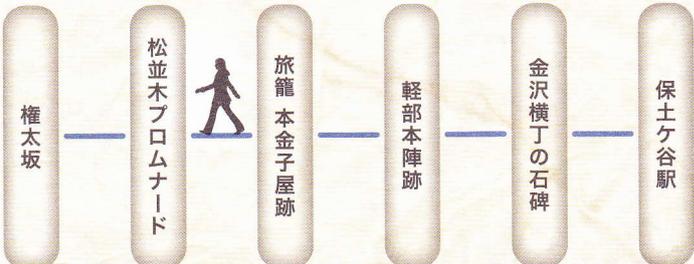
区民と横浜市との協働により、松32本を植樹し、旧東海道を象徴する松並木がよみがえりました。松並木の中に一里塚も復元し、塚の上には昔のように榎(エノキ)を植え、松並木とともに再現されています。地域の方々による美化活動が盛んです。



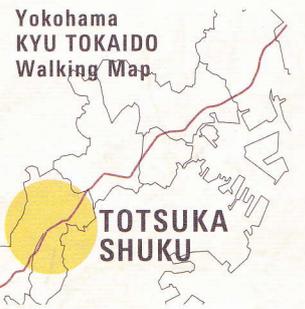
おすすめコース②

江戸の権太坂一里塚コース①  
全長距離約5km

本陣跡や旅籠屋跡を過ぎると、美しい松並木プロムナードが広がり、その後には江戸時代、旧東海道の最初の難所といわれる「権太坂」が待ち受けています。



P13 おすすめコースに続く



江戸を発った旅人が  
最初の宿泊地にした  
5番目の宿場

戸塚宿の成立は、慶長9(1604)年。隣宿である藤沢、保土ヶ谷の宿が成立した慶長6(1601)年から遅れること3年でした。日本橋から数えて5番目の宿場町で、起点の日本橋からは十里半(約42km)の距離にあります。江戸寄りに権太坂、京寄りに大坂という難所にはさまれていたため、朝、江戸を発った当時の旅人にとって、初めて宿泊する場所として最適であり、鎌倉への遊山の道、大山参詣の分岐点の宿としても大変にぎわっていました。天保14(1843)年の東海道宿村大概帳(しゅくそんたいがいちやう)によると、宿内の人口は2900人余り、家数は613、本陣は2、脇本陣は3、旅籠は75と東海道五十三次の中では10番目に宿泊施設の多い宿場でした。

# TOTSUKA SHUKU

## 戸塚宿



### A 品濃一里塚

しなのいちりづか

江戸から数えて9番目の一里塚で、保土ヶ谷宿と戸塚宿の間に位置しています。神奈川県内では、ほぼ完全な形で残る唯一の一里塚で、県の指定史跡となつています。旧東海道をはさんで道の両側に二つの塚があり、品濃側(西側)には昔、大きな榎(エノキ)が植えられていたといわれています。現在は品濃側、平戸側(東側)ともに、塚とその周辺が公園として整備されています。



### B 八坂神社

やさかしんじや

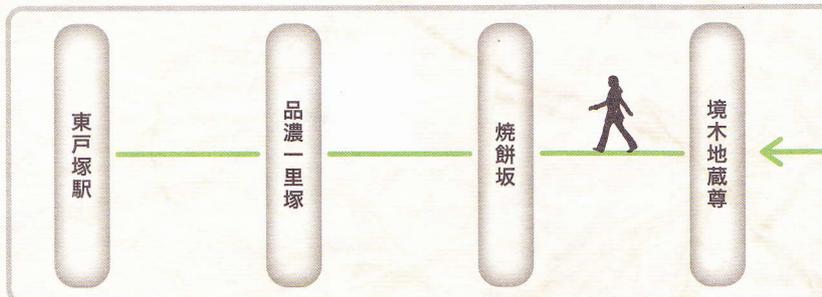
通称「お天王さま」として親しまれている戸塚宿の鎮守です。元亀3(1572)年に、牛頭天王社を勧請したのが始まりと言われています。毎年7月14日に行われる「お札まき」は、無病息災を祈願して市の指定無形文化財になっています。

### おすすめコース①

江戸の権太坂  
一里塚コース②  
全長距離約5km

茶屋で出される焼餅が名物だった境木を過ぎると、それが名前の由来といわれる焼餅坂へ。その先に品濃一里塚があり、当時の雰囲気を感じられるコースです。

P12おすすめコースから





**妙秀寺**  
みょうしゅうじ  
日蓮宗のお寺で、本尊は釈迦如来です。境内には、鎌倉道の道標があります。



**鎌倉ハムの発祥の地**  
かまくら  
はっしょうち  
明治10年頃、英国人のカーチスにより、柏尾村に外国人専用のホテルが建てられ、宿泊客に供するハムをつくったのが始まりといわれています。煉瓦づくりの建物は、大正7(1918)年に建造されました。

**C**  
COLUMN

平戸果樹の里

平戸地区一帯は、農業専用地区に指定されており、自然豊かな地域です。この辺りの果樹園は「平戸果樹の里」と呼ばれ、「浜なし」などの栽培を行っています。「浜なし」とは、梨の品種名ではなく、横浜市果樹生産者の統一ブランド名で、市場出荷せず、ほぼ全量を庭先などで直売されるため、食べ頃の時期を逃さず、新鮮おいしく味わえます。



- 利用可能なトイレ
- 歴史的建造物/場所
- インフォメーション
- 旧東海道
- おすすめコース①
- おすすめコース②



ここから京方は、数々の浮世絵の背景に登場する長大な大坂の上が続いています。

歌川広重「東海道五拾三次之内 戸塚」の題材となった橋です。両側に毛槍を模した街灯が建っています。

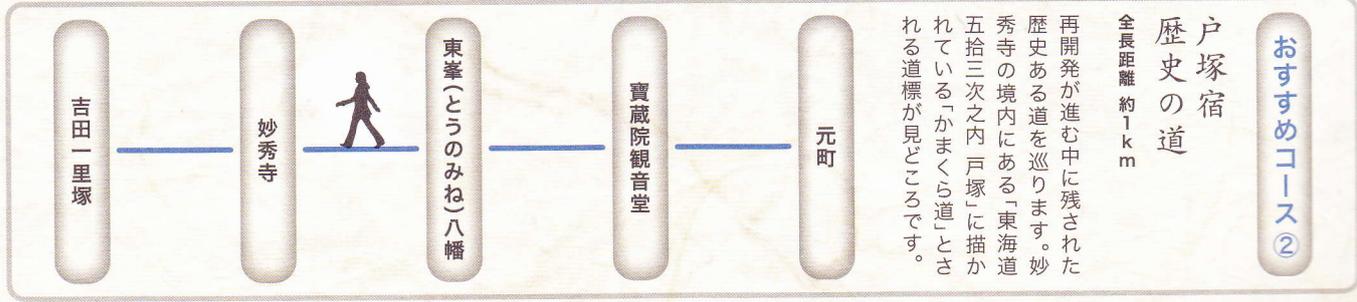
京方へは橋の手前をまがります。

地下コンコースに特大の浮世絵の壁画があります。

**富塚八幡宮**  
とみづかはちまんぐう  
戸塚宿の鎮守で、祭神は譽田別命(応神天皇)と富厲彦命(とつぎこのみこと)の二柱です。山頂の古墳は富厲彦命の墳墓(ふんぼ)とされており、「富塚」と呼ばれ、これが「戸塚」の地名の起りとも言われています。境内には、松尾芭蕉の句碑もあります。



**清源院**  
せいげんいん  
浄土宗のお寺で、徳川家康の側室お万の方(清源院殿)ゆかりの寺です。本尊は徳川家康から拝領したといわれる齒吹阿弥陀如来(はぶきあみだ)に由来(い)で、境内には松尾芭蕉の句碑、心中句碑、お万の方の遺骸火葬跡の碑があります。



再開発が進む中に残された歴史ある道を巡ります。妙秀寺の境内にある「東海道五拾三次之内 戸塚」に描かれている「かまくら道」とされる道標が見どころです。

全長距離約1km  
**戸塚宿 歴史の道**  
おすすめコース②